

付録3 新型コロナウイルス感染拡大の状況における大学の対応について（旭川医科大学）

1. 新型コロナウイルス感染症に対応して、教育課程の実施、授業の方法等について、学生の学習の質を維持するために行った取組の概要を確認したい。

大学回答欄

取組状況：

感染拡大により対面授業が不可能な状況になったことから、オンライン授業を行うこととしたが、既に、学修管理システム（LMS、製品名 manaba）を利用していたことから、登校が可能となるまでの授業は全面的に manaba を使用している。Web 会議システム（Zoom 等）の使用は、新規の契約締結、学内及び学生の通信環境調査・整備が必要となることから、準備を整え、6月に Zoom を導入した。

manaba による授業は、第2～4学年は4月20日から、第1学年は5月7日から、順次、行っている。医学科における臨床実習は、5月11日から manaba を利用したオンライン実習を行っており、5月25日から全員登校しての臨床実習後も、オンライン教材を併用している。

夏季休業明けからは、学生を半数に分けて、登校するグループと自宅でオンライン授業を行うグループとを1週間単位で交互に行うハイブリッド型の授業を基本に実施している。看護学科における臨地看護学実習も、学外実習施設での実習ができない科目については、オンライン実習を実施している。

主な工夫：

①従来の授業と大きく異なることから、教員に対して授業方針等に関する説明会を行うとともに、manaba や Zoom を活用するため、操作に習熟していない教員に対しハンズオンセミナーを開催した。このような説明会やセミナーの開催を通じて、全学的対応かつ水準を保つ授業の実施に努めている。

②学生に対し、manaba の習熟のための説明と模擬授業を実施した。また、全学生に対し、自宅でのオンライン環境調査を実施し、1割程度の学生にオンライン状況が不安定になる場合があることを把握した。オンライン環境に不安のある学生は、図書館や空き教室を利用して受講している。

③感染拡大時にすべての授業がオンラインに切り替わることを想定し、学生が登校可能となった後も、オンライン教材を併用した授業としている。

④授業の出席は、登校した場合でも manaba による小テストに回答することとしている。これにより、感染リスクを減らし、登校・オンラインの別なく、確実に効率的に出席管理ができる。また、小テストは、成績評価の30%の比率を標準にしている。日々の授業の確認だけでなく、定期試験が完全な形で出来なくなった場合の成績評価に備えるためである。

現時点の成果：

①Zoom のみの授業ではなく、manaba を取り入れていることにより、学修履歴が記録され、確認できる。チュートリアルなどディスカッションを行う演習科目などにおいては、manaba システム上にディスカッションの記録が残ることから評価が確実にできる。

②平成29年度の manaba 導入後、利用率が100%になった。また、ハンズオンセミナー等を通じてオンライン教育への理解が深められた。

③講義資料は、すべて manaba のシステム上に置いている。教室での資料配付がないことから、感染対策、印刷費の削減に結び付いた。

2. 新型コロナウイルス感染症に対応して、学生の学習及び生活の支援について行った取組の概要を確認したい。

大学回答欄

各自の保有するPCが故障した場合にノートPC等の貸出を行っている。

国家試験を控えた医学科6年，看護学科4年に勉強部屋の貸出を実施している。

学生支援緊急給付金について、大学院、留学生、学部生合わせて108人分の推薦を日本学生支援機構に対し行った。

日本学生支援機構から「新型コロナウイルス感染症対策助成金」として80万円の交付を受け、先根拠資料のとおり30名に対し支援した。

新型コロナウイルスワクチン（ファイザー製）を希望する学生に対して接種し、学部在籍学生の95%以上が接種した。なお、任意接種であり、体質等により接種できない者もいる可能性を鑑み、接種済み者と未接種者における対応の差は設けていない。